

かみ こ いわ い せき
上 小 岩 遺 跡

江戸川区は、縄文時代の頃(約5000年前)は、まだ海の底でした。

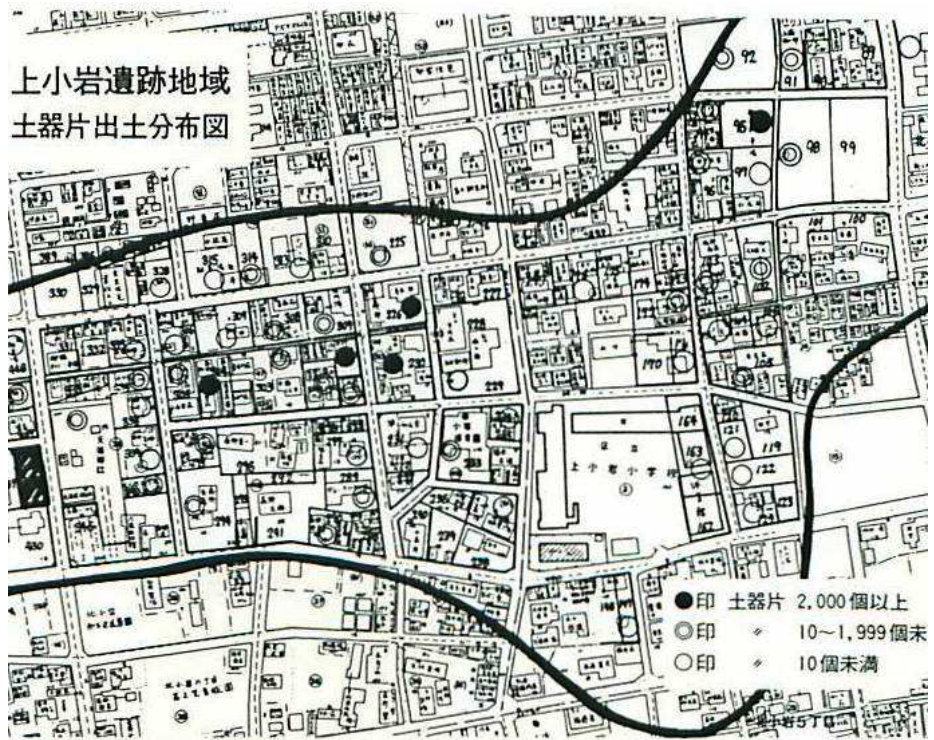
約3000年前頃から地盤が隆起したり、川から土砂が流れ込んだりして次第に陸地ができました。

江戸川区では弥生時代の後期頃(約1800年前)に小岩で人が住み始めました。これが上小岩遺跡です。

上小岩遺跡は、現在の北小岩六・七丁目一帯に広がっていたと思われる大昔の人々の生活の跡です。長い年数地面の下に埋まったために、今まで残されてきました。専門家が地面を掘り調べたことによって、大昔の人々がどのような生活をしていたかが少しずつわかってきました。

そのきっかけは、昭和27年に当時小岩第三中学校の生徒であった^{ちんよしなり}陳可成さんが自宅裏の用水路から数個の土器片を発見し、学校の中村進先生に連絡したことでした。

その後、中村先生によって調査が続けられ、昭和49年には東京都の遺跡地図にも登録されています。



中村進『上小岩遺跡の研究』1961より一部改変

昭和58年に、3ヵ所で発掘(試掘)をおこない、翌年には北小岩六丁目の畑地を借りて本格的な発掘調査がおこなわれました。

その結果、上小岩遺跡は弥生時代の後期から古墳時代を経て、中・近世にかけての遺物が出土する「複合遺跡」ということがわかりました。

上小岩遺跡からの出土状況

弥生時代：弥生時代の終わり頃と考えられる土器片が出土しています。

古墳時代：この遺跡から出土した土器(壺・^{つぼ}甕形土器、^{かめがた}土錘^{どすい}など)の大部分は古墳時代前期のものです。

中・近世：^{いたび}板碑(室町時代)や陶器片などが出土しています。

今のところ、上小岩遺跡は古墳時代のはじめころの大きなムラの跡ではないかと考えられています。

奈良県東大寺正倉院に残る文書の中に、^{ようろう}養老5年(721)に作られた戸籍が残っています。この中に、^{しもうさのくにかつしかぐんおおしまごう}下総国葛飾郡大嶋郷「^{こうわり}甲和里」「^{しままたり}嶋俣里」という地名があり、その「甲和里(人口454人)」が現在の小岩、「嶋俣里」が現在の柴又と考えられていますが、それを証拠付ける遺物は出土していません。



上小岩遺跡から出土した土器
(S字状口縁付き甕)



上小岩遺跡発掘風景(昭和60年)

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)